

## 第6回伊勢原市男女共同参画推進委員会 会議録

〔事務局〕 人権・広聴相談課

〔開催日時〕 令和5年12月13日（水曜日）午後7時～午後8時50分

〔開催場所〕 伊勢原市役所 2階 2C会議室

〔出席者〕

（委員） 和田委員長、紫牟田副委員長、渡辺委員、城所委員、片伯部委員、  
臼井委員、小林委員 7名

（事務局） 人権・広聴相談課長、ほか2名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

〔配付資料〕

- 資料1 令和5年度いせはら男女共同参画フォーラム 役割分担
- 資料2 当日の流れ
- 資料3 受付等レイアウト
- 資料4 いせはら男女共同参画フォーラム シナリオ（案）
- 資料5 いせはら男女共同参画フォーラム プログラム（案）
- 資料6 いせはら男女共同参画フォーラム アンケート（案）
- 資料7 講師当日スライド
- 資料8 （仮称）男女共同参画推進サポーター制度（案）について  
<資料番号なし>
- 令和5年度いせはら男女共同参画フォーラム チラシ

《審議の経過》

1 議事

（1）令和5年度いせはら男女共同参画フォーラムの会場開催について

- ア 役割分担について
- イ 当日の流れについて
- ウ 会場レイアウトについて

○事務局より、資料1～3を用いて会場開催当日の役割分担などについて、説明した。

○司会や受付係（扉の開閉、マイク受け渡し担当）、記録係を決定した。（欠席委員には事務局より連絡する。当日の出席状況により、担当を再調整する）

(委員長)

テーマ選定に協力いただいた向上高校の生徒さんたちは、受付などを手伝ってもらえるかもしれないという話が出ていたが、どのような状況となっているか。

(事務局)

チラシを送付する際に、参加の取りまとめをいただくよう依頼する予定である。担当の先生がお忙しいようで、なかなか連絡が取りづらい。初めての試みであるため、まずは参加していただくことをお願いしたいと思う。

また、参加していただける生徒さんが多くいるようであれば、質疑応答の際に質問してもらえないか、先生へ相談したいと考えている。

(委員長)

11月に開催されたデートDVの講座に、若い方が複数いたが、高校生か。

(事務局)

高校生の参加は、2名であった。本市の新採用職員が何人か受講してくれたため、若い世代が多く参加したように見えたかと思う。

(委員長)

高校には、なるべく多くの生徒さんの参加をお願いする方向で、調整を進めていきたい。

受付係が複数いるが、個別の動きが今回の資料では見えづらい。

受付には、遅れてくる人もいるかと思うので、講演が始まった後にも誰か残った方が良いかと思う。

(事務局)

受付係に個別にお願いしたいのは、扉の開閉とマイクの受け渡し担当である。その他の役割については、係になった委員全員で、配布資料の準備などをしていただきたい。手話通訳者などの案内は事務局で行うため、受付に来たら事務局へ声をかけていただきたい。

また、講演開始後は扉の開閉を担当していただきたいので、そのままホールへ入り聞いていただく形で良い。開始後の受付は、事務局で対応したい。

(委員)

扉の開閉は、音楽会のように入ってはいけないと見張るような形でなくとも良いか。

(事務局)

非常時の対応や、トイレなどに行ったときに開けっ放しにならないようにしていただきたい。

(委員長)

リハーサルをするということで、委員長と司会者の集合時間が10時となっているが、もう少し遅くとも良いかと思う。昨年はリハーサルが必要かと思って、この時間に集合したが、結局やることがなかった。

(事務局)

通して話してみるようであれば、10時ごろに集合いただきたいが、委員長と司会者の希望はいかがか。

(委員)

司会は、シナリオができているため、そのまま読むということで良いのであれば、マイクテストができれば良い。

(事務局)

承知した。では、全委員、10時半に集合ということでお願いしたい。

(委員長)

昼食は、各自コンビニかどこかで、お弁当などを買って持ち込み、控室に置いておく形で良いか。途中で抜けるのも、難しいかと思う。

(委員)

持ってきてもらう方が良いと思う。

(委員長)

質疑応答について、質問者は、司会が指名するというので良かったか。

(事務局)

質問者は、司会に指名していただく。

マイク受け渡し担当について、去年は質疑応答が始まる時に、司会台の横から事務局が出てきて、マイクを渡した。マイクは質疑応答用であるので、開演前からマイク受け渡し担当の委員に持っていただくことも可能である。

マイク受け渡し担当の委員は、質問があったときに、司会に指名された人のところへマイクを持って行っていただければ良い。

エ シナリオについて

オ プログラム及びアンケートについて

○事務局より、資料4～6を用いて司会のシナリオと当日配布するプログラム及びアンケートについて、説明した。

(委員)

プログラムに掲載の写真や画像について、画質が粗いが、修正は可能か。

(事務局)

見づらくなっており、申し訳なかった。PDFにまとめたものから印刷したため、写真や画像が粗くなっている。

当日は、画質の良いものを準備する。

(委員長)

シナリオについては、司会者が話しやすいようにしてもらうのが良いかと思う。司会者と事務局で調整していただきたい。

(委員、事務局了承)

(委員長)

陰マイクアナウンスは、誰が担当するか。

(事務局)

こちら、司会者にお願いします。

(委員長)

では、司会の方をお願いしたい。

先ほどの説明の際に、事務局より相談があったが、アンケートの間3の気持ちに変化があったかというところについて、「やや」といった表現を入れるか検討したい。

(事務局)

この項目はプランの中で意識変化の経過を追う項目になっている。これまでは、

あった・なかったの二択としていた。

(委員長)

「気持ちに変化があった」は今までどおりで、「やや変化があった」も表現としては良い。「やや変化がなかった」は表現としてはおかしい。

(委員)

変わらないという表現は、いかがか。

(委員)

あまり、とつけてみてはいかがか。

(委員)

問3に新しく選択肢を入れると、「変化があった」や「ややあった」を選んだ人に、問4を答えてもらうということが良いか。

(事務局)

おっしゃるとおり、問3の選択肢を増やすと「変化があった」や「ややあった」などのプラスの方向の回答をした人に、問4も回答いただくよう修正したい。

(委員)

今までのアンケートの回収率は、良い方か。

当日、すぐその場で書くのが得意ではなく、最近はQRコードなどが付いていて、後からでも答えられるようなものを見かけたりする。あまり回収率良くないようであれば、そういうのを取り入れても良いかなと思う。

(事務局)

あまり参考にならないが、去年は35人中31人の回答があり、ほぼ全員から回答があった。

(副委員長)

高齢の方が書いていた印象がある。

(事務局)

11月に開催した人権啓発講演会は、146人中108人から回答があった。

ご提案のWebでの回答は、今後の動画配信時に用いるページを先に作っておいて、QRコードを記載して、アクセスしてもらうことが可能である。

アンケートのページは、動画配信時に公開を始める予定であったが、会場開催日以降にはアクセスできるよう、事務局にて対応したい。

(委員)

問5の選択肢の2番目「女性が暮らしやすく、暮らし続けられる環境」という部分が、読みづらいかと思う。「女性が暮らしやすい環境」という表現が良いかと思うがいかがか。

(事務局)

プランにそのまま掲載されている文言である。

(委員長)

暮らしやすいということと、継続的にという二面の意味があり、このような表現にしている。

(委員)

少し読みづらかっただけであるため、そのままが良いかと思う。

(事務局)

プランの冊子にも掲載している内容のため、このままとさせていただく。

カ 講演内容（講師当日スライド）について

○講師より送付いただいた講演内容（講師当日スライド・資料7）について、協議した。

（委員）

講師の名前の後ろのかっこ内の名前が、「なかけん」となっているのは、講師が自ら名乗っているのであったか。

（事務局）

おっしゃるとおり、この名前でYouTubeチャンネルを持っている。

（委員長）

一通り資料を確認して、気になった点を話させていただきたい。

2ページ目は、まず、ワークショップ的な書き方になっているため、無いほうが良いかと思う。7ページも、「書き出してみましよう」というワーク形式になっているので、無くしていただくのが良いかと考えている。

12ページ以降は、こちらからもお願いしている話も含まれており、多様な性に関する基礎知識や彼の今までの活動や体験・経験であるため、問題ないと思う。

修正の方向性としては、まず、市民文化会館の小ホールで開催するため、聴講者とのコミュニケーションが難しい。会場とのやり取りは、講演終了後の質疑応答に限られており、ワークショップの雰囲気や会場に問いかける場合、一方通行の働きかけとなってしまふことをお伝えしたい。

よって、2ページは削除いただき、この部分でお話するであろう、今日の講演で、さまざまな考え方があることを知っていただく、また、それらを受け入れる視点や意識の変化について考えていただきたいといったことは、3ページ目の流れの中で触れていただくと良いかと考えている。

7ページも、「書き出してみましよう」ではなく、「男らしさ女らしさを説明して、と言われたときに、どんなふうに説明するか考えてください」といった感じで軽く問いかけていただく。すぐに9ページ目の「どんなことが思い浮かんだでしょうか」というスライドを出して、その上で、8ページを提示して、最後に11ページのタイトルを「こんなことが思い浮かびましたか」といった内容に変えていただいて、話をしてもらってはいかがか。そのように修正していただくと、10ページは不要になる見込みである。

事務局から、講師に相談してもらいたい。

少なくともワークショップ形式は、会場がそんなに熱い雰囲気ではないので、無理かと思う。

（副委員長）

当日の年齢層も分からないし、大学などに行き慣れているからという感覚のスライドである気がする。

（委員長）

今回、目黒区の教育委員会などの対面で行った講義をベースに資料を作っていた。先日の打ち合わせのときにも、そういうことをやりたい雰囲気は、出していた。自分を温めるためにも、コミュニケーションが取ればやりたいと考えているのだろうけれども、ホールでの実施は難しいかと思う。

基本は、講師の話したいように、話しやすいように話してもらいたい、前半の部分だけ、修正していただけないかお願いしてもらいたい。

(2) (仮称) 男女共同参画推進サポーター制度 (案) について

○事務局より、資料7を用いて (仮称) 男女共同参画推進サポーター制度 (案) について、説明した。

(委員長)

例えば、今後男女共同参画推進委員会の委員になる方は、自動的にサポーターにも登録してもらおう。現在や過去に協力してくれていた方たちも、活動が分かっているので、比較的入りやすいかと思う。

基本的には、啓発誌と仲間作り、情報共有ができれば良いかと思う。今年は、向上高校の人権委員会と意見交換をしたが、高校生たちにもサポーターになってもらえたら、ポスター展を企画してもらおうなど、なかなか大人だけではできなかったことができるかもしれない。

(事務局)

いろいろな自治体の制度を寄せ集めて案を作成しているため、本市に合う・合わないがあるかと思う。

(委員長)

サポーター制度については、プランの策定に関わっているときからやりたいと考えていた。事務局案では、サポーター証を発行することになっているが、それが名誉になるようなものか、メリットになるようなものかは、まだ分からないし、認知もされていないため、最初の時期が厳しい状況になるかと思う。

(委員)

小田原市の会社に勤めているが、小田原市には小田原Lエールという制度がある。

(事務局)

えるぼし認定やくるみんマークのような、小田原市独自の認証制度である。

(委員)

認定された企業が小田原市のホームページに掲載されていて、男女平等に取り組んでいる、女性活躍を推進している、またそういったところを理解している企業であるとPRができる。

(委員長)

企業側にはとてもメリットがあると思うが、個人がホームページに名前が載ることがメリットになるかは分からない。

個人は、講座などに自由に参加できて、いろいろな意見が言えるといった環境が嬉しいと言ってくれる人たちがいればいいと考えている。

(委員)

ホームページに名前が載るだけでも、名誉ではないが、このような活動に参加している方たちであると紹介・アピールできて良いかと思う。

企業側にも、とてもメリットがあると思う。

(委員長)

個人の場合は、講座やフォーラムなどに5回参加すると、ブロンズからシルバーにステージが上がっていくといったような仕組みがあってもいいのではないかと。

そういったアイデアがあれば、委員より提案してもらおうと良いかと思う。

(委員)

企業のイメージアップに繋がったり、就職活動する学生には響いたりする可能性はあるため、勤めている会社ではこの制度を導入した。

(委員長)

事務局は制度の創設に向けて、進めていただきたい。

(事務局)

本日お配りした資料のデータは、後日メールでも送付させていただく。  
そのメールへ返信する形で、ご意見をいただけると幸いです。

(3) 第4回勉強会「男女の性差を理解する」

○委員長より、男女の性差に関し、性別特有の疾患やその特徴などの紹介があった。

※概要は、別紙のとおり

(4) その他

○意見等なし

以上

## 男女の性差を理解する 概要

## ○性の違いについて

- 生殖器が異なる＝ホルモンの違いが影響している

## ○性ホルモンの違いについて

- 女性：思春期ごろから増加し、35歳ごろから低下、閉経後はほぼ分泌しない調整ホルモンとして、多様な作用がある
- 男性：ゆるやかに低下し、歳をとっても分泌される  
社会に自分の居場所がある人が、分泌量が多いという研究結果もある

## ○がんの生存率について

- 前立腺がん：(5年) 100%、(10年) 97.8%
- 乳がん：(5年) 93.7%、(10年) 85.9%
- 摘出すると、生存率は上がる

## ○性別特有の疾病などについて

- 乳がんの割合は、日本人女性の12人に1人(国立がん研究センターの調査)
- 女性：乳がん、子宮(頸・体)がん、子宮内膜症、卵巣がん
- 男性：前立腺がん、前立腺肥大
- 性感染症：梅毒が増えている。女性は20代、男性は50代が多い
- 産後うつ・ノイローゼ

女性30%が発症。男性も増加(パタニティブルー)。育児の不安や責任感が影響

## ●更年期

女性は、閉経前後の約10年間。ホルモンの分泌が止まり、体が男性化している  
ホットフラッシュは、7割～8割の人が経験する。骨粗しょう症にも注意が必要  
男性は、テストステロンというホルモンの、加齢による低下が原因

EDも老化の一種で、血管が弱っている。放置すると脳梗塞のリスクが上がる

## ●生殖機能の改善

コエンザイムQ10などは体の中で作られないため、摂取が必要

## ○性差医療について

- 性差医療＝男女の病気のかかりやすさや症状、治療法などが異なること
- 男女比の傾いている病気  
例) 痛風：男性が多い、女性はほとんどかからない
- 症状の出方が異なる病気  
例) 心疾患：男性は心臓病特有の症状、女性は他の部分が痛む
- 免疫反応の強さに、性差がある
- 投薬

効く・効かないは、男女差より個人差が大きい

症状の現れ方の男女差と個人差を考慮して、治療ができるようになってきている